

		音 楽 研 究 会			部 会 記 録	
日時		平成30年 9月 5日（水） 15：30～16：45				
部会名		研修部 管楽器部会			主任	田中 亜友美
参加数		9名	司会	石井 裕美	記録	有馬 真貴子
研 修 内 容	研修会「ドリル指導の実践」 講師：横浜市立豊田小学校副校長 花本 敏夫 先生 提案：横浜市立中田小学校 内野 征治 先生					
	全国レベルを誇る中田小学校マーチングバンドをモデルバンドとして、豊田小学校副校長花本先生を講師に研修を行った。モデルバンド研修の前半は、大会曲の練習の様子を見学した。後半は、曲を区切って、その部分の課題はどこか、花本先生から具体的にご指導いただいたり、参加者の先生方で意見を交流したりした。 ＜花本先生からご指導いただいた内容＞ ・全体の技術のレベルが高い。 ・冒頭のメロフォンのメロディの出来栄で曲の印象が決まる。 ・テンポが変化する部分が安定するとよい。 ・First Push へのエネルギーがもっとあるとよい。 ・ドリルでラインがずれたときも、気持ちの中で縦を合わせようとすることが大事。 ・マーチングをやるよさは、マーチングを通して人と出会うことができること。マーチングをやる人達は、その一瞬のために努力をしている。一人ひとりが練習の中での「感動」を見つけてほしい。そして、マーチングのよさを伝えることができる人になってほしい。 ＜研究協議会＞ ○花本先生より ・動きのレベルに差がある。MM など一度基礎練習で確認をしてからドリルをやるとよい。 ・繰り返しは大事だが、ただ繰り返すだけでなく、視点を与える。また、子どもに「何回やればできるようになるか」投げかけてもよい。「自分から」を引き出したり、答えへの導き方の角度を変えていったりすることによって、マンネリ化を防ぐこともできる。 ・歩幅の切り替えが課題。ボディバランスが決まるとかっこいい。小さい動きでもその場面の雰囲気意識できれば、音がなくても演奏が見えてくる。 ・個人で見ると課題は見えてくる。底上げをしていく。 ○中田小学校の顧問の先生方より ・音楽性の向上、集団行動や基本的な生活習慣を身に付ける、達成感を味わうなどのねらいで活動を行っている。 ・地域が応援してくれていて、地域行事などへの参加が多い。卒業生は楽器を続けている子が多い。 ○部員の先生方より ・サウンドに深みがある。どのような練習をしているのか。 ・子どものモチベーションを保つにはどうすればよいのか。 ・なぜ基礎練習をやるのか考えることが大事。また、後輩が上手にできていたら先輩を褒める。後輩先輩、双方に効果的。 ・子ども達に「なぜできないのか」を問うのではなく、「なぜできたか」理由を自分達で考えさせるとよい。					